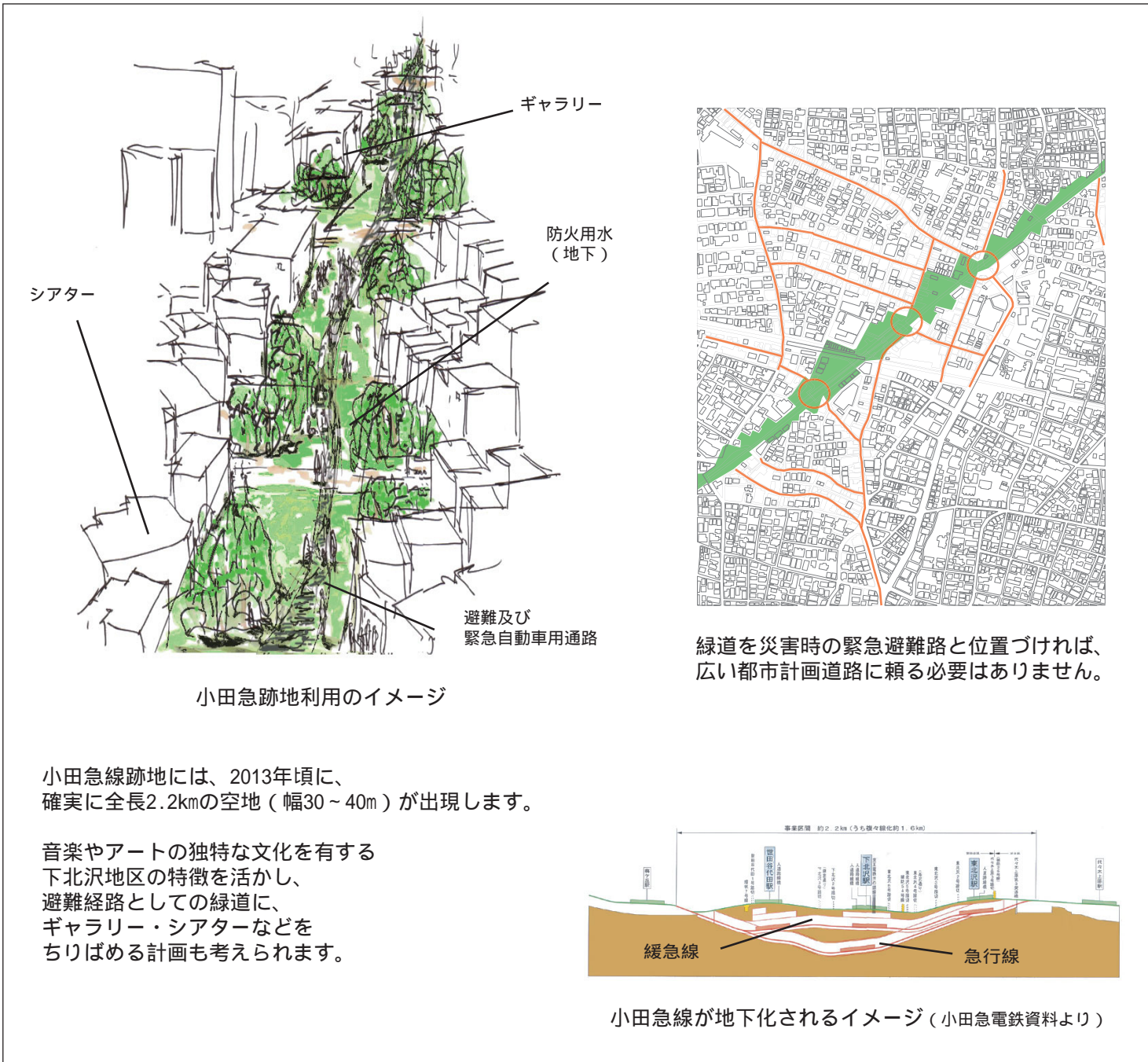


小田急線跡地を、文化を育む防災緑道に！！

下北沢フォーラム + 地域の専門家による提言

今のまちづくり行政は見直しが必要です。



小田急線跡地利用のイメージ

小田急線跡地には、2013年頃に、確実に全長2.2kmの空地（幅30～40m）が出現します。

音楽やアートの独特な文化を有する下北沢地区の特徴を活かし、避難経路としての緑道に、ギャラリー・シアターなどをちりばめる計画も考えられます。

小田急線が地下化されるイメージ（小田急電鉄資料より）

今の区政で、YES? or NO?

道路づくりを正当化するために、必要以上に「防災」が利用されています。“防災が重要だから道路をつくる”は、結論ありきの議論です。本来は、防災のために何が必要かで議論されるべきです。

ポケットパークや防火用水の設置など、より有効な手段がある筈です。全線開通までに膨大な時間がかかり、避難経路として利用できません。

「住民参加」といいながら、民意がまちづくりに反映されていません。閉じられた場で、限定された人々との議論をもって、住民の意見を取り入れたと断じています。

大型開発や環境悪化に関する近隣住民以外の意見は、ほとんど聞き入れられません。区の都市計画審議会に多くの反対意見が寄せられても、無視され続けています。

大量な税金が投入される事業について、区民に十分な説明責任が果たされていません。

福祉や介護の予算が削減され、道路や公共施設の建替えに多額の予算が振り向けられています。それなのに、いまだに、小学校の耐震工事は十分に進んでいません。

私たちは、「街育て」を提案します。

街は、「造る」ものではありません。
街は、人々が集い「育む」ものです。
人々が集うことで、人々の暮らしが生まれ、文化が生まれ、商業が生まれる。
そして、それらの相乗効果によって、人々の心が生まれる街なのです。

世田谷区には、新たな大規模道路や高層建築で街の魅力までも壊してしまう「街造り」は相応しくありません。親が子供を育てるのと同じように、既にある「個性」を認め、その個性が将来に向けていっそう伸びて魅力が増すように、そっと手を差し伸べるような「育て」の発想が良いと思います。それを「街育て」と呼びます。

「街育て」は、人々の暮らし、コミュニティ、文化、環境、商業などを統合的に考えることで実現します。緊急性が高い街の課題、例えば災害対策、高齢者や弱者への対策、緑の保全、放置自転車対策などの解決に際しても「街育て」の考えが有効です。

大型開発より緑と文化を守ろう

先進自治体といわれた世田谷区を取り戻し、緑と文化の豊かな世田谷を、区民が自分達でつくることが重要です